

南会津・餅倉山

小沼 充範

■山行年月日:2019年1月12日

■メンバー:小沼 充範

餅倉山は下郷町枝松にあり大戸岳の南東に位置する山である。15年前の晩秋、餅倉山から南東に延びる尾根を利用して登ったことがあり、新雪の積もる雑木林が印象に残る。枝松の集落の外れに車を止め、11時20分出発する。餅倉山の南西に位置するピークから南に派生する尾根を登る。最初は急な杉の植林地の斜面であり、やがて雑木林へと変わる。東に小さな沢を挟んで尾根が見えるようになり、尾根は岩場となり難なく通過することができる。雪の斜面を掛けていく一頭のシカを見ることができた。東側に見えていた尾根が合流すると傾斜が増し、尾根上にはイノシシが土を掘り返した所がいくつもある。尾根を登ると一頭のイノシシと出会うが、イノシシは反対方向に逃げていった。東日本大震災以降イノシシの数が増えてい



餅倉山から見る二岐山

る。以前、会津の山で見られなかったイノシシが今では会津の山で見られるようになり、イノシシによる農作物の被害も増えている。12時20分、アンテナ中継所にたどり着く。見晴らしが良く、鶴沼川を挟んで対岸のテーブル状の山の上に二岐山、大白森山、鎌房山下岳、三倉山、七ヶ岳が見える。雪が膝上となりワカンをつける。

傾斜が緩くなると前衛峰となり、木々の間から大戸岳が見える。美しいブナの大木を見ながら進むと三角点のある頂上である、14時着。三角点のある場所だけ伐採されており、背丈ほどのブッシュとなっている。山頂から磐梯山を眺めることができた。帰路は往路を戻る。登り口15時45分着。餅倉山は今回で2回目の山行となり、手軽な雪山を楽しむことができた。

